



2016年度（平成29年3月期）
第3四半期決算

参考資料

2017年2月2日
エーザイ株式会社

お問い合わせ

PR部： TEL 03-3817-5120

IR部： TEL 03-3817-3016

<http://www.eisai.co.jp/>

【将来予想に関する事項と事業等のリスク】

本発表において提供される資料ならびに情報は、現在における予想、目標、評価、見通し、リスクを伴う想定などの不確実性に基づくものを含んでいます。従って、さまざまな要因の変化により、将来予想などが実際の結果と大きく乖離する可能性があります。リスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった日本および国際的な経済状況が含まれています。

当社グループの連結業績を大幅に変動させる、あるいは投資判断に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクは、次のとおりです。なお、これらのリスクは、本資料作成日現在において判断、予想したものです。

海外展開におけるリスク、新薬開発の不確実性、他社とのアライアンスにおけるリスク、医療費抑制策、ジェネリック医薬品に関するリスク、知的財産に関するリスク、副作用発現のリスク、法規制に関するリスク、訴訟に関するリスク、工場の閉鎖または操業停止、使用原材料の安全性および品質に関するリスク、外部への業務委託に関するリスク、環境に関するリスク、ITセキュリティおよび情報管理に関するリスク、金融市況および為替の動向に関するリスク、内部統制の整備等に関するリスク、ならびに災害等に関するリスク

目次

1. 連結損益計算書	1
2. 資本的支出及び減価償却費の状況	2
3. セグメント情報	2
4. 報告セグメント別情報	3
5. 主力品売上収益	7
6. セグメント別売上収益予想	9
7. 連結包括利益計算書	10
8. 連結キャッシュ・フロー計算書	11
9. 連結財政状態計算書	12
10. 連結四半期業績の推移	14
11. 主要開発品	17

為替レート

		米国 (円/米ドル)	欧州 (円/ユーロ)	英国 (円/ポンド)	中国 (円/人民元)
2015年度 第3四半期	期中平均レート	121.69	134.36	186.64	19.26
	期末日レート	120.61	131.77	178.78	18.36
2015年度 通期	期中平均レート	120.14	132.57	181.30	18.85
	期末日レート	112.68	127.70	161.92	17.39
2016年度 第3四半期	期中平均レート	106.62	118.02	141.85	15.95
	期末日レート	116.49	122.70	143.00	16.76
2016年度	第4四半期予想レート	113.00	120.00	141.00	16.30

- 通期予想は、当四半期連結累計期間の業績や前提となる為替レートの変更などを踏まえて見直しを実施していますが、2016年10月31日に公表した通期予想から変更はありません。予想レート修正箇所には下線を付しています。
- 当社の連結財務諸表は国際会計基準（IFRS）にて開示しています。
- 当社グループは、セグメントを医薬品事業とその他事業に区分しており、医薬品事業を構成する日本（医療用医薬品、ジェネリック医薬品、一般用医薬品等）、アメリカス（北米、中南米）、中国、アジア（韓国、台湾、香港、インド、アセアン等）、EMEA（欧州、中東、アフリカ、オセアニア）の5つの事業セグメントを報告セグメントとしています。
なお、当連結会計年度において、日本事業の継続的な成長に向けた再編に伴い、前連結会計年度に報告セグメントを構成していた「薬粧-日本」を「日本医薬品事業」へ統合しました。また、当連結会計年度より、医薬品事業およびその
他事業のセグメント利益の算定方法を変更したため、連結損益計算書の「その他の損益」を医薬品事業とその他事業へ
配分していません。前連結会計年度まで医薬品事業とその他事業へ配分していた「その他の損益」は、「親会社の本社管
理費等」に含めて表示しています。当該変更による要約四半期連結財務諸表への重要な影響はありません。
なお、本資料のセグメント情報に関する前年同期の数値は、上記報告セグメントの変更および算定方法の変更を反映し
ています。
- 当資料中の数字は、四捨五入で表示しています。

1. 連結損益計算書

(億円、%)

	2015年度				2016年度				2016年度	
	3Q累計	売上比	通期	売上比	3Q累計	売上比	前同比	増減額	通期予想	売上比
売上収益	4,264	100.0	5,479	100.0	4,092	100.0	96.0	△ 172	5,480	100.0
売上原価	1,493	35.0	1,945	35.5	1,479	36.1	99.0	△ 14	1,990	36.3
売上総利益	2,772	65.0	3,535	64.5	2,614	63.9	94.3	△ 158	3,490	63.7
販売費及び一般管理費	1,459	34.2	1,928	35.2	1,329	32.5	91.1	△ 130	1,810	33.0
販売費	463	10.8	612	11.2	408	10.0	88.3	△ 54	—	—
人件費	623	14.6	821	15.0	586	14.3	94.1	△ 37	—	—
管理費他	374	8.8	496	9.1	335	8.2	89.6	△ 39	—	—
研究開発費	914	21.4	1,223	22.3	795	19.4	87.0	△ 118	1,162	21.2
その他の収益	102	2.4	177	3.2	123	3.0	120.8	21	82	1.5
その他の費用	15	0.3	41	0.7	36	0.9	245.6	22	—	—
営業利益	486	11.4	519	9.5	576	14.1	118.5	90	600	10.9
金融収益	16	0.4	20	0.4	15	0.4	94.6	△ 1	—	—
金融費用	27	0.6	35	0.6	21	0.5	76.6	△ 6	—	—
税引前四半期（当期）利益	475	11.1	505	9.2	571	13.9	120.1	95	588	10.7
法人所得税	91	2.1	△46	△0.8	161	3.9	177.5	70	—	—
四半期（当期）利益	384	9.0	550	10.0	409	10.0	106.5	25	440	8.0
四半期（当期）利益の帰属									—	—
親会社所有者	383	9.0	549	10.0	384	9.4	100.3	1	413	7.5
非支配持分	1	0.0	1	0.0	25	0.6	2427.1	24	—	—

四半期（当期）包括利益	408	9.6	165	3.0	457	11.2	112.1	49
-------------	-----	-----	-----	-----	-----	------	-------	----

EPS（円）	134.1	192.2	134.4	144.4
DPS（円）	—	150.0	—	150.0
ROE（%）	—	9.4	—	7.5
DOE（%）	—	7.3	—	7.8
海外売上収益比率（%）	45.0	46.0	43.7	

- ・通期予想のその他の収益は、その他の費用を控除して表示しています。
- ・当連結会計年度より、販売費及び一般管理費の内訳を組替えました。この変更に合わせて、前連結会計年度の数値を組替えて表示しています。
- ・EPS：基本的1株当たり四半期(当期)利益、DPS：1株当たり配当金、ROE：親会社所有者帰属持分当期利益率、DOE：親会社所有者帰属持分配当率

<コメント>

■売上収益	<ul style="list-style-type: none"> ・ レンビマ、フィコンパの拡大による増加 ・ EAファーマ株式会社の連結子会社化による増加 ・ 日本における薬価改定による減少 ・ 為替の影響による減少（現地通貨ベースでは全ての海外セグメントで増加）
■販売費及び一般管理費	<ul style="list-style-type: none"> ・ オペレーションの高質化・効率化による減少 ・ 為替の影響による減少 ・ 前年同期に米国での構造改革費用の発生による減少
■研究開発費	<ul style="list-style-type: none"> ・ 為替の影響による減少 ・ 共同研究開発テーマの進捗に応じたマイルストーンペイメントの受領
■その他の収益	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子会社株式の取得に伴う一時収益（割安購入益）の計上による増加
■為替による影響額	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売上収益：△285億円、営業利益：△21億円
■為替感応度 (1円の円高に対しての年間影響額)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売上収益：米ドル △10.7億円、ユーロ △2.5億円、英ポンド △0.3億円、人民元 △30.4億円 ・ 営業利益：米ドル 2.2億円、ユーロ △1.8億円、英ポンド 0.7億円、人民元 △14.9億円

2. 資本的支出及び減価償却費の状況

(億円)

	2015年度		2016年度		
	3Q累計	通期	3Q累計	増減額	通期予想
資本的支出額	143	198	265	122	340
有形固定資産	88	128	82	△ 6	130
無形資産	55	70	183	128	210
減価償却費及び償却費	275	341	200	△ 75	270
有形固定資産	100	131	82	△ 18	110
無形資産	175	210	117	△ 57	160

・資本的支出額は発生ベースで示しています。

3. セグメント情報

1) セグメント売上収益

(億円、%)

	2015年度		2016年度		
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比	為替影響除く 前同比
医薬品事業（報告セグメント）計	4,135	5,318	4,026	97.4	104.1
日本 医薬品事業	2,251	2,849	2,274	101.0	101.0
アメリカス 医薬品事業	929	1,222	852	91.7	104.7
米国	919	1,210	841	91.5	104.4
中国 医薬品事業	382	493	364	95.3	115.0
アジア 医薬品事業	260	340	256	98.5	113.2
EMEA 医薬品事業	313	413	280	89.6	104.0
その他事業	130	162	66	51.1	55.0
連結売上収益	4,264	5,479	4,092	96.0	102.6

・外部顧客に対する売上収益を示しています。

2) セグメント利益

(億円、%)

	2015年度		2016年度		
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比	為替影響除く 前同比
医薬品事業（報告セグメント）計	1,374	1,689	1,358	98.8	105.9
日本 医薬品事業	940	1,143	839	89.2	89.2
アメリカス 医薬品事業	178	236	237	133.1	153.4
中国 医薬品事業	108	126	109	100.8	135.2
アジア 医薬品事業	66	83	72	108.2	127.9
EMEA 医薬品事業	82	102	102	124.1	138.1
その他事業	23	33	13	57.5	59.6
研究開発費	△914	△1,223	△795	87.0	95.6
親会社の本社管理費等	△78	△130	△94	120.7	119.8
割安購入益	—	—	93	—	—
子会社株式売却益	80	150	1	0.9	0.9
連結営業利益	486	519	576	118.5	122.8

・当連結会計年度より、医薬品事業およびその他事業のセグメント利益の算定方法を変更したため、連結損益計算書の「その他の損益」を医薬品事業とその他事業へ配分していません。前連結会計年度まで医薬品事業とその他事業へ配分していた「その他の損益」は、「親会社の本社管理費等」に含めて表示しています。この変更に合わせて、前連結会計年度の数値を組替えて表示しています。

4. 報告セグメント別情報

1) 日本 医薬品事業

(億円、%)

	2015年度		2016年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比
売上収益	2,251	2,849	2,274	101.0
医療用医薬品	1,855	2,339	1,914	103.2
ジェネリック医薬品	211	285	208	98.6
一般用医薬品等	141	181	152	107.7
診断薬	44	44	—	—
セグメント利益	940	1,143	839	89.2
日本 医療用医薬品 主力品売上収益				
ヒト型抗ヒトTNF α モノクローナル抗体 ヒュミラ	251	326	293	116.8
アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤 アリセプト	335	405	241	72.0
疼痛治療剤（神経障害性疼痛・線維筋痛症） リリカ	188	247	184	98.1
プロトンポンプ阻害剤 パリエット*	248	304	170	68.8
末梢性神経障害治療剤 メチコバール	165	208	144	87.1
不眠症治療薬 ルネスタ	46	60	61	132.7
抗がん剤 ハラヴェン	53	68	60	112.8
経口抗凝固剤 ワーファリン	60	76	54	89.7
成分栄養剤 エレンタール*	—	—	51	—
分岐鎖アミノ酸製剤 リーバクト*	—	—	51	—
骨粗鬆症治療剤 アクトネル	51	64	44	87.1
抗がん剤 レンビマ	11	15	21	190.5
抗てんかん剤 フィコンパ	—	—	3	—
日本 一般用医薬品等 主力品売上収益				
ビタミンB2主剤「チョコラBBプラス」等 チョコラBBグループ	87	111	99	114.3

- ・パリエットには、ヘリコバクター・ピロリ除菌用3剤組み合わせパック製剤「ラベキュアパック400/800」および「ラベファインパック」の売上収益を含めています。
- ・リリカの売上収益は共同販促収入です。
- ・2015年12月28日付で、当社の診断薬事業子会社のエーディア株式会社を譲渡しました。
- * EAファーマの取り扱い製品です。

2) アメリカス 医薬品事業 (北米、中南米)

(億円、%)

	2015年度		2016年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比
売上収益	929	1,222	852	91.7 <104.7>
米国	919	1,210	841	91.5 <104.4>
セグメント利益	178	236	237	133.1 <153.4>
アメリカス 主力品売上収益				
制吐剤 Aloxi	418	547	355	85.0
米国	418 (343)	547 (455)	355 (333)	85.0 <97.0>
抗がん剤 ハラヴェン	133	183	125	93.8
米国	127 (105)	175 (146)	119 (112)	93.4 <106.6>
抗がん剤 レンビマ	59	88	107	179.8
米国	59 (49)	88 (73)	106 (100)	178.6 <203.9>
抗てんかん剤 Banzel	99	132	99	100.2
米国	98 (80)	131 (109)	98 (92)	100.1 <114.3>
プロトンポンプ阻害剤 アシフェックス	67	83	55	82.3 <93.9>
米国	67 (55)	83 (69)	55 (52)	82.3 <93.9>
抗てんかん剤 Fycompa	27	38	37	134.8
米国	26 (21)	37 (31)	35 (33)	134.9 <154.0>
肥満症治療剤 Belvq	36	44	28	78.3 <89.3>
米国	36 (29)	44 (37)	28 (26)	78.3 <89.3>

- ・前同比の< >内は為替の影響を除いた数値を示しています。
- ・アメリカスでは、米国のみがアシフェックス、Belvqの自社販売国になります。

3) 中国 医薬品事業

(億円、%)

	2015年度		2016年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比
売上収益	382	493	364	95.3 <115.0>
セグメント利益	108	126	109	100.8 <135.2>
中国 主力品売上収益				
末梢性神経障害治療剤 メチコパール (百万人民元)	151 (785)	187 (993)	138 (865)	91.2 <110.2>
肝臓疾患用剤・アレルギー用薬 強力ネオミノファーゲンシー/グリチロン錠 (百万人民元)	70 (366)	93 (492)	62 (388)	87.8 <106.0>
アルツハイマー型認知症治療剤 アリセプト (百万人民元)	41 (213)	56 (295)	45 (281)	109.5 <132.2>
プロトンポンプ阻害剤 パリエット (百万人民元)	24 (125)	33 (173)	28 (173)	114.4 <138.1>

・前同士の<>内は為替の影響を除いた数値を示しています。

4) アジア 医薬品事業 (韓国、台湾、香港、インド、アセアン等)

(億円、%)

	2015年度		2016年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比
売上収益	260	340	256	98.5 <113.2>
セグメント利益	66	83	72	108.2 <127.9>
アジア 主力品売上収益				
アルツハイマー型認知症治療剤 アリセプト	77	100	73	94.2 <108.3>
ヒト型抗ヒトTNF α モノクローナル抗体 ヒュミラ	68	90	70	103.1 <118.4>
プロトンポンプ阻害剤 パリエット	27	35	26	98.7 <113.4>
末梢性神経障害治療剤 メチコパール	25	31	21	86.7 <100.6>
抗がん剤 ハラヴェン	14	19	15	101.9 <118.1>
抗てんかん剤 Fycompa	0	1	3	724.6 <833.7>
抗がん剤 レンビマ	0	0	2	496.7 <568.3>

・前同士の<>内は為替の影響を除いた数値を示しています。

5) EMEA 医薬品事業（欧州、中東、アフリカ、オセアニア）

（億円、％）

	2015年度		2016年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比
売上収益	313	413	280	89.6 <104.0>
セグメント利益	82	102	102	124.1 <138.1>
EMEA 主力品売上収益				
抗がん剤 ハラヴェン	100	132	84	84.2 <98.5>
抗てんかん剤 ゾネグラン	61	76	40	65.1 <76.2>
抗てんかん剤 Fycompa	26	36	31	120.5 <140.4>
抗てんかん剤 Zebinix	28	38	26	94.9 <109.4>
抗がん剤 レンビマ	6	11	21	361.5 <420.3>
抗てんかん剤 イノベロン	17	22	14	84.1 <99.2>

・前同比の<>内は為替の影響を除いた数値を示しています。

5. 主力品売上収益

1) ニューロロジー領域製品

(億円、%)

	2015年度		2016年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比
ニューロロジー領域製品計	1,418	1,797	1,223	86.3 <93.1>
アリセプト (アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤)	516	633	373	72.3 <76.7>
日本	335	405	241	72.0
中国	41	56	45	109.5 <132.2>
アジア	77	100	73	94.2 <108.3>
メチコパール (末梢性神経障害治療剤)	347	435	310	89.1 <98.4>
日本	165	208	144	87.1
中国	151	187	138	91.2 <110.2>
アジア	25	31	21	86.7 <100.6>
リリカ (疼痛治療剤) ・日本	188	247	184	98.1
イノベロン/Banzel (抗てんかん剤)	118	158	116	98.2 <112.2>
アメリカス	99	132	99	100.2 <114.4>
EMEA	17	22	14	84.1 <99.2>
フィコンパ/Fycompa (抗てんかん剤)	54	76	74	137.8 <157.9>
日本	—	—	3	—
アメリカス	27	38	37	134.8 <154.0>
アジア	0	1	3	724.6 <833.7>
EMEA	26	36	31	120.5 <140.4>
ルネスタ (不眠症治療薬) ・日本	46	60	61	132.7
ソネグラン (抗てんかん剤)	75	92	43	57.4 <67.3>
EMEA	61	76	40	65.1 <76.2>
Belvia (肥満症治療剤) ・米国	36	44	28	78.3 <89.3>
Zebinix (抗てんかん剤) ・EMEA	28	38	26	94.9 <109.4>
その他	11	13	8	78.8 <78.8>

- ・前同比の< >内は為替の影響を除いた数値を示しています。
- ・アリセプトのレビー小体型認知症の適応は日本とフィリピンのみです。
- ・リリカの売上収益は共同販促収入です。

2) オンコロジー領域製品

(億円、%)

	2015年度		2016年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比
オンコロジー領域製品計	886	1,184	874	98.7 <111.2>
Aloxi (制吐剤)・アメリカス	418	547	355	85.0 <97.0>
ハラヴェン (抗がん剤)	301	402	284	94.3 <105.8>
日本	53	68	60	112.8
アメリカス	133	183	125	93.8 <107.1>
アジア	14	19	15	101.9 <118.1>
EMEA	100	132	84	84.2 <98.5>
レンピマ (抗がん剤)	77	115	151	196.7 <221.3>
日本	11	15	21	190.5
アメリカス	59	88	107	179.8 <205.3>
アジア	0	0	2	496.7 <568.3>
EMEA	6	11	21	361.5 <420.3>
トレアキシン/シンベンダ (抗がん剤)	32	41	33	101.1 <102.1>
その他	58	79	52	88.8 <101.4>

・前同比の< >内は為替の影響を除いた数値を示しています。

・当連結会計年度より、がん関連領域をオンコロジー領域に名称変更し、領域に含まれる製品を見直しています。
この変更に合わせて、前連結会計年度の数値を組替えて表示しています。

6. セグメント別売上収益予想（2016年度）

（億円）

	2015年度		2016年度	
	3Q累計	通期	3Q累計	通期予想
日本	2,251	2,849	2,274	3,000
医療用医薬品	1,855	2,339	1,914	2,540
ヒト型抗ヒトTNF α モノクローナル抗体 ヒュミラ	251	326	293	400
アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤 アリセプト	335	405	241	290
プロトンポンプ阻害剤 パリエット*	248	304	170	215
末梢性神経障害治療剤 メチコパール	165	208	144	185
不眠症治療薬 ルネスタ	46	60	61	80
抗がん剤 ハラヴェン	53	68	60	80
経口抗凝固剤 ワーファリン	60	76	54	70
成分栄養剤 エレンタール*	—	—	51	65
分岐鎖アミノ酸製剤 リーバクト*	—	—	51	60
骨粗鬆症治療剤 アクトネル	51	64	44	60
ジェネリック医薬品	211	285	208	285
一般用医薬品等	141	181	152	175
ビタミンB2主剤「チョコラBBプラス」等 チョコラBBグループ	87	111	99	110
診断薬	44	44	—	—
アメリカス	929	1,222	852	1,170
米国	919	1,210	841	1,135
中国	382	493	364	480
アジア	260	340	256	335
EMEA	313	413	280	380
その他	130	162	66	115
連結売上収益	4,264	5,479	4,092	5,480
主要品目グローバル売上収益				
アリセプト	516	633	373	460
パリエット/アシフェックス	370	461	283	330
ハラヴェン	301	402	284	435
日本	53	68	60	80
アメリカス	133	183	125	195
アジア	14	19	15	20
EMEA	100	132	84	140
レンピマ	77	115	151	240
日本	11	15	21	30
アメリカス	59	88	107	175
アジア	0	0	2	2
EMEA	6	11	21	33
Fycompa（日本を除く）	54	76	71	120
アメリカス	27	38	37	70
アジア	0	1	3	3
EMEA	26	36	31	47

* パリエットには、ヘリコバクター・ピロリ除菌用3剤組み合わせパック製剤「ラベキアパック400/800」および

「ラベファイナック」の売上収益を含めています。

* フィコンパ（英名「Fycompa」）の日本での2016年3Q累計の売上収益は3億円です。

* EAファーマの取り扱い製品です。

7. 連結包括利益計算書

(億円、%)

	2015年度		2016年度		
	3Q累計	通期	3Q累計	前同比	増減額
四半期（当期）利益	384	550	409	106.5	25
その他の包括利益					
損益に振り替えられることのない項目					
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	51	16	3	5.2	△ 49
確定給付制度に係る再測定	—	△ 68	—	—	—
小計	51	△ 52	3	5.2	△ 49
損益にその後に振り替えられる可能性のある項目					
在外営業活動体の換算差額	△ 27	△ 327	41	—	68
キャッシュ・フロー・ヘッジ	△ 0	△ 7	4	—	5
小計	△ 28	△ 334	45	—	73
その他の包括利益合計	24	△ 386	48	203.0	24
四半期（当期）包括利益	408	165	457	112.1	49
四半期（当期）包括利益の帰属					
親会社所有者	407	165	432	106.2	25
非支配持分	1	△ 0	25	2765.3	24

8. 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2015年度 3Q累計	2016年度	
		3Q累計	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期利益	475	571	95
減価償却費及び償却費	275	200	△ 75
減損損失	2	2	△ 0
運転資本の増減額（△は増加）	45	△ 252	△ 297
利息及び配当金の受取額	16	15	△ 1
利息の支払額	△ 29	△ 20	10
法人所得税の支払額	△ 71	△ 108	△ 38
法人所得税の還付額	17	105	88
その他	△ 115	△ 85	29
営業活動によるキャッシュ・フロー	615	426	△ 189
投資活動によるキャッシュ・フロー			
① 有形固定資産の取得による支出	△ 36	△ 41	△ 5
② 有形固定資産の売却による収入	132	2	△ 129
③ 無形資産の取得による支出	△ 316	△ 52	264
④ 子会社の取得による支出	△ 90	—	90
⑤ 子会社の取得による収入	—	193	193
⑥ 子会社の売却による収入	124	65	△ 59
<資本的支出等（キャッシュベース）> ①+②+③+④+⑤+⑥	△ 186	167	353
金融資産の取得による支出	△ 124	△ 92	32
金融資産の売却・償還による収入	128	87	△ 41
3カ月超預金の預入による支出	△ 166	△ 409	△ 243
3カ月超預金の払戻による収入	239	131	△ 108
その他	△ 1	1	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 110	△ 114	△ 5
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の増減額（△は減少）	208	—	△ 208
長期借入れによる収入	—	100	100
社債の償還による支出	△ 300	—	300
配当金の支払額	△ 429	△ 429	△ 0
その他	0	△ 26	△ 26
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 521	△ 355	165
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 18	△ 25	△ 7
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 34	△ 69	△ 35
現金及び現金同等物の期首残高	1,733	1,793	60
現金及び現金同等物の期末残高	1,700	1,724	25

フリー・キャッシュ・フロー	429	593	165
---------------	-----	-----	-----

・フリー・キャッシュ・フロー＝（営業活動によるキャッシュ・フロー）－（資本的支出等（キャッシュベース））

<コメント>

- 投資活動によるキャッシュ・フロー
 - ・EAファーマ株式会社の連結子会社化に伴い、子会社の取得による収入が発生
 - ・サンノーバ株式会社の譲渡に伴い、子会社の売却による収入が発生
- 財務活動によるキャッシュ・フロー
 - ・長期借入れによる収入が発生

9. 連結財政状態計算書

<資産の部>

(億円、%)

	2015年度		2016年度			増減額
	3月末	構成比	12月末	構成比	前期末比	
資産						
非流動資産						
有形固定資産	1,046	10.7	1,023	9.8	97.8	△ 23
のれん	1,749	18.0	1,806	17.4	103.3	57
無形資産	1,042	10.7	1,114	10.7	107.0	73
その他の金融資産	438	4.5	565	5.4	128.9	126
その他	71	0.7	109	1.0	152.5	37
繰延税金資産	916	9.4	904	8.7	98.7	△ 12
非流動資産合計	5,262	54.0	5,521	53.1	104.9	259
流動資産						
棚卸資産	737	7.6	831	8.0	112.7	94
営業債権及びその他の債権	1,477	15.2	1,838	17.7	124.5	361
その他の金融資産	195	2.0	378	3.6	193.4	183
その他	203	2.1	113	1.1	55.6	△ 90
現金及び現金同等物	1,768	18.2	1,724	16.6	97.5	△ 44
小計	4,380	45.0	4,883	46.9	111.5	503
売却目的で保有する資産	98	1.0	—	—	—	△ 98
流動資産合計	4,478	46.0	4,883	46.9	109.1	405
資産合計	9,740	100.0	10,404	100.0	106.8	664

<コメント>

- 資産の部
- ・EAファーマ株式会社の連結子会社化に伴う増加
 - ・サンノーバ株式会社の譲渡に伴い、売却目的で保有する資産が減少

<資本及び負債の部>

(億円、%)

	2015年度		2016年度			
	3月末	構成比	12月末	構成比	前期末比	増減額
資本						
親会社の所有者に帰属する持分						
資本金	450	4.6	450	4.3	100.0	—
資本剰余金	582	6.0	776	7.5	133.3	194
自己株式	△ 362	△ 3.7	△ 362	△ 3.5	99.9	0
利益剰余金	3,950	40.6	3,909	37.6	99.0	△ 41
その他の資本の構成要素	1,117	11.5	1,162	11.2	104.0	45
親会社の所有者に帰属する持分合計	5,737	58.9	5,935	57.0	103.5	198
非支配持分	32	0.3	176	1.7	556.2	144
資本合計	5,768	59.2	6,111	58.7	105.9	343
負債						
非流動負債						
借入金	2,036	20.9	2,148	20.6	105.5	112
その他の金融負債	32	0.3	27	0.3	83.8	△ 5
退職後給付に係る負債	132	1.4	135	1.3	102.5	3
引当金	12	0.1	12	0.1	104.3	1
その他	210	2.2	239	2.3	113.9	29
繰延税金負債	3	0.0	3	0.0	118.5	1
非流動負債合計	2,424	24.9	2,564	24.6	105.8	140
流動負債						
営業債務及びその他の債務	564	5.8	662	6.4	117.3	98
その他の金融負債	42	0.4	74	0.7	175.4	32
未払法人所得税	54	0.6	67	0.6	124.1	13
引当金	111	1.1	152	1.5	136.8	41
その他	747	7.7	773	7.4	103.5	26
小計	1,519	15.6	1,729	16.6	113.8	209
売却目的で保有する資産に直接関連する負債	28	0.3	—	—	—	△ 28
流動負債合計	1,547	15.9	1,729	16.6	111.7	182
負債合計	3,972	40.8	4,293	41.3	108.1	321
資本及び負債合計	9,740	100.0	10,404	100.0	106.8	664

<コメント>

■資本の部

- ・EAファーマ株式会社の連結子会社化に伴い、資本剰余金および非支配持分が増加

■負債の部

- ・サンノーバ株式会社の譲渡に伴い、売却目的で保有する資産に直接関連する負債が減少
- ・借入金が増加
- ・EAファーマ株式会社の連結子会社化に伴う負債の増加

10. 連結四半期業績の推移

1) 損益計算書項目

(億円)

	2015年度				2016年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上収益	1,392	1,363	1,509	1,215	1,369	1,330	1,393
売上原価	494	501	498	452	498	484	497
売上総利益	898	862	1,012	763	871	846	897
販売費及び一般管理費	499	465	495	469	437	433	459
販売費	160	155	148	149	125	136	148
人件費	223	198	202	198	198	192	196
管理費他	116	112	146	122	114	105	116
研究開発費	327	301	285	309	262	288	246
その他の収益	4	15	83	74	103	8	12
その他の費用	0	6	8	26	17	6	14
営業利益	76	105	306	33	258	128	190
金融収益	7	3	6	4	7	2	6
金融費用	8	9	10	7	7	7	7
税引前四半期利益	74	99	302	30	258	123	189
法人所得税	19	43	29	△137	49	36	76
四半期利益	55	56	273	166	209	87	114
四半期利益の帰属							
親会社所有者	54	56	273	166	197	82	105
非支配持分	1	0	△0	0	12	5	8
四半期包括利益	202	△99	305	△243	△230	20	667
EPS (円)	19.1	19.5	95.5	58.1	69.0	28.6	36.7

・当連結会計年度より、販売費及び一般管理費の内訳を組替えました。この変更に合わせて、前連結会計年度の数値を組替えて表示しています。

・EPS：基本的1株当たり四半期利益

2) 資本的支出及び減価償却費の状況

(億円)

	2015年度				2016年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
資本的支出額	13	20	110	55	171	36	58
有形固定資産	10	15	63	40	47	11	23
無形資産	3	5	47	15	124	25	35
減価償却費及び償却費	103	101	70	66	80	59	61
有形固定資産	35	33	32	31	29	27	27
無形資産	68	69	38	35	51	32	35

・資本的支出額は発生ベースで示しています。

3) キャッシュ・フロー計算書項目

(億円)

	2015年度				2016年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	211	227	177	341	△48	316	158
投資活動によるキャッシュ・フロー	△174	40	25	43	234	△103	△245
財務活動によるキャッシュ・フロー	△425	△0	△96	△209	△147	△1	△207
現金及び現金同等物の期末残高	1,387	1,601	1,700	1,793	1,727	1,908	1,724
フリー・キャッシュ・フロー	△103	336	196	382	187	286	121

・フリー・キャッシュ・フロー＝(営業活動によるキャッシュ・フロー)－(資本的支出等(キャッシュベース))

4) 財政状態計算書項目

(億円)

	2015年度				2016年度		
	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
資産	10,017	9,871	10,182	9,740	9,631	9,652	10,404
資本	5,997	5,900	6,006	5,768	5,627	5,649	6,111
親会社の所有者に帰属する持分	5,963	5,867	5,973	5,737	5,459	5,477	5,935
負債	4,020	3,971	4,176	3,972	4,004	4,003	4,293
借入金	2,170	2,163	2,270	2,036	2,107	2,101	2,148
親会社所有者帰属持分比率(%)	59.5	59.4	58.7	58.9	56.7	56.7	57.0
負債比率(Net DER/倍)	0.11	0.06	0.06	0.01	0.04	△0.01	△0.01

・負債比率(Net DER)＝(有利子負債(社債及び借入金)－現金及び現金同等物－3カ月超預金等)÷親会社の所有者に帰属する持分

5) 主力品売上収益の四半期推移

(1) ニューロロジー領域製品

(億円)

	2015年度				2016年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
ニューロロジー領域製品計	468	456	495	379	406	394	423
アリセプト(アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤)	180	160	176	117	132	119	122
日本	114	101	120	70	89	75	77
中国	14	14	14	15	14	15	16
アジア	26	25	26	23	24	24	25
メチコパール(末梢性神経障害治療剤)	118	112	118	88	98	103	108
日本	55	50	59	43	50	46	48
中国	51	52	48	36	40	48	50
アジア	9	9	7	6	7	7	8
リリカ(疼痛治療剤)・日本	57	61	69	60	61	58	65
イノベロン/Banze(抗てんかん剤)	34	40	45	40	37	38	41
アメリカス	27	33	38	34	31	33	35
EMEA	5	5	6	5	5	5	5
フィコンパ/Fycompa(抗てんかん剤)	15	18	22	22	25	23	27
日本	—	—	—	—	1	1	1
アメリカス	7	9	11	11	12	11	14
アジア	0	0	0	1	1	1	1
EMEA	7	8	10	10	11	10	10
ルネスタ(不眠症治療薬)・日本	14	15	17	14	19	19	23
ソネグラン(抗てんかん剤)	24	26	25	16	16	14	13
EMEA	20	20	21	15	15	13	12
Belvia(肥満症治療剤)・米国	15	11	10	9	10	7	11
Zebinix(抗てんかん剤)・EMEA	9	10	9	11	7	10	9
その他	3	3	4	3	3	3	3

・アリセプトのレビー小体型認知症の適応は日本とフィリピンのみです。

・リリカの売上収益は共同販促収入です。

(2) オンコロジー領域製品

(億円)

	2015年度				2016年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
オンコロジー領域製品計	279	295	312	298	285	294	295
Aloxi(制吐剤)・アメリカス	135	141	142	129	120	121	114
ハラヴェン(抗がん剤)	101	98	102	101	94	93	97
日本	18	16	18	15	20	20	20
アメリカス	44	46	44	50	42	41	42
アジア	4	5	5	5	5	5	5
EMEA	34	32	34	32	27	26	31
レンビマ(抗がん剤)	13	28	36	38	44	52	55
日本	2	4	5	5	7	7	7
アメリカス	11	22	27	29	32	37	38
アジア	—	—	0	△0	0	1	1
EMEA	0	2	4	5	4	8	9
トリアキシン/シンベンダ(抗がん剤)	11	10	12	9	11	11	11
その他	20	18	20	21	16	18	18

11. 主要開発品

＜自社開発品一覧＞

品目／開発コード	効能追加等**	開発ステージ***	領域
承認取得品			
○ ハラヴェン（脂肪肉腫）	効能	（欧）承認	がん
○ フィコンバ（経口懸濁液）	剤形	（米欧）承認	神経
◎ レンビマ/Kispalyx（腎細胞がん・セカンドライン）	効能	（米欧ア）承認	がん
○ Belvia（1日1回製剤）	剤形	（米）承認	神経
○ ヒュミラ（非感染性ぶどう膜炎）	効能	（日）承認	その他
申請中・申請準備中開発品			
アリセプト（高度アルツハイマー型認知症）	効能	（中）申請	神経
○ ハラヴェン（乳がん）		（中）申請	がん
◎ AJG511（潰瘍性大腸炎）*		（日）申請	消化器
◎ バリエット（PPI 抵抗性逆流性食道炎に対する維持療法）	用法	（日）申請	消化器
○ フィコンバ（部分てんかん単剤療法）	効能	（米）申請	神経
◎ AJG533（慢性便秘症）*		（日）申請	消化器
臨床試験中開発品			
○ E2006（不眠障害）		（日米欧）PⅢ	神経
◎ E2609（早期アルツハイマー病）		（日米欧）PⅢ	神経
◎ レンビマ（甲状腺がん）		（中）PⅢ	がん
AJM300（潰瘍性大腸炎）*		（日）PⅢ	消化器
AJG555（慢性便秘症）*		（日）PⅢ	消化器
リーバクト（低アルブミン血症）		（中）PⅢ	消化器
◎ フィコンバ（レノックス・ガスター症候群）	効能	（日米欧）PⅢ	神経
◎ フィコンバ（てんかん小児適応）	効能	（日米欧）PⅢ	神経
ハラヴェン（非小細胞肺癌）	効能	（日米欧ア）PⅢ	がん
レンビマ（肝細胞がん）	効能	（日米欧中ア）PⅢ	がん
○ レンビマ（腎細胞がん・ファーストライン）	効能	（米欧）PⅢ	がん
BAN2401（アルツハイマー型認知症）		（日米欧）PⅡ	神経
◎ E2006（アルツハイマー型認知症に伴う不規則睡眠覚醒リズム障害）		（日米）PⅡ	神経
MORAb-003（フラチナ感受性卵巣がん）		（日米欧）PⅡ	がん
MORAb-003（非小細胞肺癌）		（米欧）PⅡ	がん
MORAb-004（メラノーマ）		（米欧）PⅡ	がん
MORAb-009（中皮腫）		（米欧）PⅡ	がん
E7820（大腸がん）		（米欧）PⅡ	がん
E7777（末梢性T細胞リンパ腫、皮膚T細胞性リンパ腫）		（日）PⅡ	がん
ハラヴェン（乳がん・抗PD-1抗体ベムプロリスマブとの併用療法）		（米）PⅠ/Ⅱ	がん
◎ レンビマ（固形がん・抗PD-1抗体ベムプロリスマブとの併用療法）		（米）PⅠ/Ⅱ（日）PⅠ	がん
○ E6007（潰瘍性大腸炎）*		（日）PⅡ	消化器
○ E6011（関節リウマチ）		（日）PⅡ	その他
◎ E6011（原発性胆汁性胆管炎）*		（日）PⅡ	その他
アリセプト（ダウン症候群の退行様症状）	効能	（日）PⅡ	神経
ハラヴェン（膀胱がん）	効能	（米欧）PⅠ/Ⅱ	がん
レンビマ（メラノーマ）	効能	（米欧）PⅡ	がん
レンビマ（非小細胞肺癌 サードライン・単剤）	効能	（米欧）PⅡ	がん
レンビマ（非小細胞肺癌 RET 転座）	効能	（日米欧ア）PⅡ	がん
レンビマ（胆道がん）	効能	（日）PⅡ	がん
○ ハラヴェン（乳がん・PEGPH20との併用療法）		（米）PⅠ/Ⅱ	がん
E6011（クローン病）*		（日）PⅠ/Ⅱ	その他
Belvia（肥満症）		（日）PⅠ	神経
E2027（アルツハイマー型認知症）		（米）PⅠ	神経
◎ E2730（てんかん）		（米）PⅠ	神経
E7090（固形がん）		（日）PⅠ	がん
MORAb-066（固形がん）		（米）PⅠ	がん
E7046（固形がん）		（米欧）PⅠ	がん
○ H3B-6527（肝細胞がん）		（米）PⅠ	がん
○ H3B-8800（血液がん）		（米欧）PⅠ	がん
○ E7438（B細胞性非ホジキンリンパ腫）		（日）PⅠ	がん
○ E6130（炎症性腸疾患）*		（日）PⅠ	消化器
MORAb-022（関節リウマチ）		（米）PⅠ	その他
E6071（自己免疫疾患）		（欧）PⅠ	その他
レンビマ（腎細胞がん）	効能	（日）PⅠ	がん
ハラヴェン（リボソーム製剤）	剤形	（欧）PⅠ	がん

* EA ファーマ開発品、** 効能：効能効果追加、剤形：剤形追加、用法：用法用量追加

*** 日：日本、米：米国、欧：欧州、中：中国、ア：日本・中国を除くアジア P = Phase：臨床試験段階

○アリセプトのバッチ製剤について開発主体が帝國製薬に変更となったため、本表から削除しました。

◎MORAb-004について、フェーズⅡ段階にあった大腸がんおよび悪性軟部腫瘍を対象とした適応の開発を中止しました。

◎併用療法を優先するため、レンビマのフェーズⅡ段階にあった子宮内膜がんの単剤治療を対象とした適応の開発を中止しました。

○：2016年4月以降の進捗、◎：2016年10月以降の進捗

(1) 神経

開発品コード：E2020 一般名：ドネペジル 製品名：アリセプト

薬効/作用機序：アルツハイマー型、レビー小体型認知症治療剤			自社品
[概要] 神経伝達物質のアセチルコリンを分解する酵素であるアセチルコリンエステラーゼを阻害することにより、脳内アセチルコリン濃度を高め、アルツハイマー型認知症(AD)の認知症症状の進行を抑制します。軽度および中等度のAD治療剤として、世界90カ国以上で承認されており、米国、日本、カナダ、中南米やアジアの一部の国などでは高度ADにも承認されています。日本とフィリピンにおいてはレビー小体型認知症の適応も取得しています。			
高度アルツハイマー型認知症(効能追加)	339試験	中国 申請(2015年2月)	経口剤
ダウン症候群の退行様症状(効能追加)	345試験	日本 PII	経口剤

○アリセプトのパッチ製剤について開発主体が帝國製薬に変更となったため、本表から削除しました。

開発品コード：E2007 一般名：ペランパネル 製品名：フィコンパ/Fycompa

薬効/作用機序：抗てんかん剤/AMPA受容体拮抗剤			自社品
[概要] グルタミン酸受容体のサブタイプであるAMPA受容体へのグルタミン酸の結合を選択的に阻害します。部分てんかんの併用療法に対して日本、欧州、米国およびアジアなど、50カ国以上で承認を取得しています。また、全般てんかんの強直間代発作の併用療法の適応についても、日本、米国、欧州などで承認を取得しています。			
経口懸濁液(剤形追加)		○ 米国 承認(2016年4月) ○ 欧州 承認(2016年9月)	経口剤
○ 部分てんかん単剤療法(効能追加)		米国 申請(2016年9月)	経口剤
◎ レノックス・ガストー症候群(効能追加)	338試験	日米欧 PIII	経口剤
◎ てんかん小児適応(効能追加)	311試験	日米欧 PIII	経口剤

開発品コード：E2006 一般名：lemborexant

薬効/作用機序：オレキシン受容体拮抗剤			自社品
[概要] 睡眠と覚醒の調整に関与するオレキシンの受容体に拮抗することで、覚醒状態を鎮め、自然な睡眠の誘発・維持を期待しています。			
○ 不眠障害	304試験	日米欧 PIII	Purdue Pharmaと共同開発 経口剤
◎ アルツハイマー型認知症に伴う不規則睡眠覚醒リズム障害	202試験	日米 PII	Purdue Pharmaと共同開発 経口剤

開発品コード：E2609

薬効/作用機序：アルツハイマー病治療剤/ β サイト切断酵素(BACE)阻害剤			自社品
[概要] アミロイド前駆体タンパク質の β サイト切断酵素であるBACEを阻害することで、ベータアミロイドの総量を低下させ、アルツハイマー病の進行を抑制することを期待しています。			
◎ 早期アルツハイマー病	301/302試験 (MISSION AD1/2)	日米欧 PIII	Biogen Inc.と共同開発 経口剤

開発品コード：BAN2401

薬効/作用機序：アルツハイマー型認知症治療剤/抗A β プロトフィブリルモノクローナル抗体			導入品(バイオアーキティック ニューロサイエンス)
[概要] ベータアミロイド(A β)プロトフィブリルに対するIgG1抗体です。神経毒性を呈することが報告されているA β プロトフィブリルを除去することで、アルツハイマー型認知症の進行を抑制することを期待しています。			
アルツハイマー型認知症	201試験	日米欧 PII	Biogen Inc.と共同開発 注射剤

○：2016年4月以降の進捗、◎：2016年10月以降の進捗

開発品コード：APD356 一般名：lorcaserin 製品名：Belvia

薬効／作用機序：肥満症治療剤／セロトニン2C受容体作動剤		導入品 (Arena Pharmaceuticals)	
<p>[概要] 新規作用機序の肥満症治療剤です。選択的に脳内のセロトニン2C受容体を刺激することにより摂食を抑制し、満腹感を促進すると考えられています。本剤は、米国において、Body Mass Index (BMI) が30kg/m²以上、あるいは少なくとも1つ以上の体重に関連する合併症を有するBMIが27kg/m²以上の成人患者様の体重管理を目的とした食事療法と運動療法に対する補助療法として、2012年6月に米国食品医薬品局 (FDA) より承認され、米国麻薬取締局によるスケジューリング指定を経て、2013年6月に発売されました。2016年7月にメキシコ、2016年12月にブラジルにおいて、それぞれ承認を取得しました。</p>			
○ 肥満症1日1回製剤 (剤形追加)		米国 承認 (2016年7月)	経口剤
肥満症		日本 P I	経口剤

開発品コード：E2027

アルツハイマー型認知症	米国 P I	自社品	経口剤
-------------	--------	-----	-----

開発品コード：E2730

◎ てんかん	米国 P I	自社品	経口剤
--------	--------	-----	-----

○：2016年4月以降の進捗、◎：2016年10月以降の進捗

(2) がん

開発品コード：E7389 一般名：エリブリン 製品名：ハラヴェン

薬効／作用機序：抗がん剤／微小管ダイナミクス阻害剤				自社品
<p>【概要】クロイソカイメン由来のハリコンドリンBの合成類縁体で、微小管の伸長を阻害し細胞周期を停止させることで抗腫瘍活性を示します。米国、欧州、日本、アジアなど、60カ国以上で乳がんに係る承認を取得しています。また、米国、日本、欧州などにおいて悪性軟部腫瘍に係る適応追加の承認を取得しています。</p>				
○ 乳がん	304試験	中国	申請（2016年7月）	注射剤
○ 悪性軟部腫瘍（効能追加）	309試験	欧州	承認（2016年5月・脂肪肉腫）	注射剤
非小細胞肺がん（効能追加）	302試験	日米欧ア	PⅢ	注射剤
膀胱がん（効能追加）	702試験	米欧	PI/Ⅱ	注射剤
トリプルネガティブ乳がん （抗PD-1抗体ペムブロリスマブとの併用療法）	218試験	米国	PI/Ⅱ	Merck & Co., Inc., Kenilworth, N.J., U.S.A.と共同開発 注射剤
○ HER2陰性乳がん（PEGPH20との併用療法）	219試験	米国	PI/Ⅱ	Halozymeと共同開発 注射剤
リポソーム製剤（剤形追加）	112試験	欧州	PI	注射剤

開発品コード：E7080 一般名：レンバチニブ 製品名：レンビマ/Kisplyx

薬効／作用機序：抗がん剤／分子標的治療薬				自社品
<p>【概要】血管内皮増殖因子受容体(VEGFR)や線維芽細胞増殖因子受容体(FGFR)に加え、血小板由来増殖因子受容体(PDGFR)、KIT、RETなどの腫瘍血管新生あるいは腫瘍悪性化に関与する受容体型チロシンキナーゼ(RTK)に対する選択的阻害活性を有する経口投与可能な、自社創出の新規結合型チロシンキナーゼ阻害剤です。本剤は、VEGFR2とのX線共結晶構造解析から、新たな結合様式(タイプV)を有することが確認された薬剤であり、速度論的解析からは、標的分子に素早く結合し強力なキナーゼ阻害作用を示すことが確認されています。甲状腺がんに係る適応で、米国・日本・欧州、アジアなど50カ国以上で承認を取得しています。また腎細胞がんに係る適応で、米国、欧州などで承認を取得しています。なお、欧州における腎細胞がんに係る適応については、製品名Kisplyxを使用しています。</p>				
◎ 甲状腺がん	308試験	中国	PⅢ	経口剤
腎細胞がん・セカンドライン（効能追加）	205試験	○ 米国 ○ 欧州 ◎ アジア（フィリピン）	承認（2016年5月） 承認（2016年8月） 承認（2016年12月）	経口剤
—	—	日本	PI	
○ 腎細胞がん・ファーストライン（効能追加）	307試験	米欧	PⅢ	経口剤
肝細胞がん（効能追加）	304試験	日米欧中ア	PⅢ	2017年度申請予定 経口剤
メラノーマ（効能追加）	702試験	米欧	PII	経口剤
非小細胞肺がん（サードライン・単剤）（効能追加）	703試験	米欧	PII	経口剤
非小細胞肺がん（RET転座）（効能追加）	209試験	日米欧ア	PII	経口剤
胆道がん（効能追加）	215試験	日本	PII	経口剤
固形がん（子宮内膜がん、腎細胞がん、頭頸部がん、 尿路上皮がん、非小細胞肺がん、メラノーマ） 固形がん（肝細胞がん、子宮内膜がんなど） （抗PD-1抗体ペムブロリスマブとの併用療法）	111試験	米国 ◎ 日本	PI/Ⅱ PI	Merck & Co., Inc., Kenilworth, N.J., U.S.A.と共同開発 経口剤/ 注射剤

◎肝細胞がんの申請予定時期を見直し、2016年度から2017年度に変更しました。

◎併用療法を優先するため、フェーズⅡ段階にあった子宮内膜がんの単剤治療を対象とした適応の開発について中止しました。

○：2016年4月以降の進捗、◎：2016年10月以降の進捗

開発品コード：MORAb-003 一般名：ファルレツズマブ

薬効／作用機序：抗がん剤／ヒト化抗葉酸受容体 α モノクローナル抗体			自社品
[概要] 葉酸受容体 α (FRA) に対するヒト化IgG1抗体です。FRAが過剰発現しているがん腫に対して抗腫瘍効果を期待しています。			
プラチナ感受性卵巣がん	O11試験	日米欧 PII	注射剤
非小細胞肺癌	O09試験	米欧 PII	注射剤

開発品コード：MORAb-004

薬効／作用機序：抗がん剤／ヒト化抗エンドシアリンモノクローナル抗体			自社品
[概要] Tumor endothelial marker 1 (TEM-1)/エンドシアリンに対するヒト化IgG1抗体です。エンドシアリンを発現しているがん腫に対して抗腫瘍効果を期待しています。			
メラノーマ	201試験	米欧 PII	注射剤

◎フェーズII段階にあった、大腸がんおよび悪性軟部腫瘍を対象とした適応の開発を中止しました。

開発品コード：MORAb-009 一般名：amatuximab

薬効／作用機序：抗がん剤／キメラ型抗メソセリンモノクローナル抗体			自社品
[概要] メソセリンに対するキメラ型IgG1抗体です。メソセリンを発現しているがん腫に対して抗腫瘍効果を期待しています。			
中皮腫	O03/201試験	米欧 PII	注射剤

開発品コード：E7820

薬効／作用機序：抗がん剤／インテグリン α 2発現抑制剤			自社品
[概要] 血管内皮細胞の接着分子であるインテグリン α 2の発現抑制作用により血管新生を阻害します。			
大腸がん	702試験	米欧 PII	経口剤

開発品コード：E7777

薬効／作用機序：抗がん剤／インターロイキン2受容体結合部分とジフテリア毒素の融合タンパク製剤			自社品
[概要] インターロイキン 2 (IL-2) の受容体結合部分とジフテリア毒素の融合タンパク製剤であり、細胞表面上の IL-2 受容体と特異的に結合し、細胞内に移行したジフテリア毒素がタンパク質合成を阻害します。			
末梢性T細胞リンパ腫、皮膚T細胞性リンパ腫	205試験	日本 PII	注射剤

開発品コード：E7090

固形がん	日本 PI	自社品	経口剤
------	-------	-----	-----

開発品コード：MORAb-066

固形がん	米国 PI	導入品 (Janssen Biotech)	注射剤
------	-------	-----------------------	-----

開発品コード：E7046

固形がん	米欧 PI	自社品	経口剤
------	-------	-----	-----

開発品コード：H3B-6527

○ 肝細胞がん	米 PI	自社品	経口剤
---------	------	-----	-----

○：2016年4月以降の進捗、◎：2016年10月以降の進捗

開発品コード：H3B-8800

○ 血液がん	米欧 P I	自社品	経口剤
--------	--------	-----	-----

開発品コード：E7438

○ B細胞性非ホジキンリンパ腫	日 P I	導入品 (Epizyme, Inc)	経口剤
-----------------	-------	--------------------	-----

(3) 消化器

開発品コード：E3810 一般名：ラベプラゾール 製品名：パリエット/アシフェックス

薬効/作用機序：プロトンポンプ阻害剤	自社品		
[概要] プロトンポンプ阻害作用に基づき、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎、ヘリコバクター・ピロリ除菌、ラベプラゾールを含むヘリコバクター・ピロリ除菌用3剤併用バック製剤などの承認を取得しています。2014年12月に低用量アスピリン投与時における胃潰瘍または十二指腸潰瘍の再発抑制に関する効能・効果および5mg錠の剤形追加の承認を取得しました。			
◎ PPI抵抗性逆流性食道炎の維持療法における 1回10mgの1日2回投与（用法・用量追加）	311試験	日本 申請（2016年10月） （EAファーマと共同開発）	経口剤

開発品コード：AJG511 一般名：ブデソニド

薬効/作用機序：潰瘍性大腸炎治療剤/局所作用型ステロイド	導入品 (Dr. Falk Pharma)		
[概要] 日本初のブデソニドを有効成分とする泡状の注腸製剤（注腸フォーム製剤）です。ブデソニドは局所作用型ステロイドであるため全身性の副作用の低減が期待でき、さらに、泡状であることから直腸およびS状結腸の炎症部位に薬剤が到達し、投与後にも漏れ出しにくい特徴があります。ブデソニド注腸フォーム剤は、欧州においては既に発売されています。			
◎ 潰瘍性大腸炎	CT1試験	日本 申請（2016年10月） （EAファーマとキッセイ薬品の共同開発）	注腸剤

開発品コード：AJG533 一般名：エロピキシバット

薬効/作用機序：慢性便秘症治療剤/胆汁酸トランスポーター阻害剤	導入品 (Albireo)		
[概要] 新規作用機序をもつ経口便秘薬です。胆汁酸の再吸収に係わる胆汁酸トランスポーターを阻害し、腸管内の胆汁酸を増加させて自然な排便を促します。			
◎ 慢性便秘症	CT1試験	日本 申請（2017年2月） （EAファーマと持田製薬の共同開発）	経口剤

開発品コード：AJM300 一般名：カロテグラストメチル

薬効/作用機序：潰瘍性大腸炎治療剤/ α 4インテグリン阻害剤	自社品		
[概要] α 4インテグリンを阻害することにより、リンパ球の接着・浸潤を防ぐ新規作用機序を有します。経口 α 4インテグリン阻害剤として世界ではじめての製品化をめざしています。			
潰瘍性大腸炎	日本 PIII	EAファーマとキッセイ薬品の共同開発	経口剤

開発品コード：AJG555

薬効/作用機序：慢性便秘症治療剤/ポリエチレングリコール製剤	導入品 (Norgine)		
[概要] ポリエチレングリコール製剤により腸管内の浸透圧制御を行うことで排便を促す経口便秘薬です。			
慢性便秘症	CT2試験	日本 PIII	EAファーマが開発 経口剤

一般名：イソロイシン・ロイシン・バリン顆粒 製品名：リーバクト配合顆粒

薬効/作用機序：分岐鎖アミノ酸製剤	自社品		
[概要] 味の素が開発した分岐鎖アミノ酸製剤であり、非代償性肝硬変における血清アルブミン値を改善する薬剤です。日本では「食事摂取量が十分にもかかわらず低アルブミン血症を呈する非代償性肝硬変患者の低アルブミン血症の改善」を効能・効果とし、EAファーマより販売されています。			
低アルブミン血症	中国 PIII	2017年度申請予定 （EAファーマと共同開発）	経口剤

○：2016年4月以降の進捗、◎：2016年10月以降の進捗

開発品コード：E6007

薬効／作用機序：潰瘍性大腸炎治療剤／インテグリン活性化阻害剤	自社品
[概要] インテグリン活性化阻害による白血球全般の接着・浸潤を抑制する新規作用機序を有する化合物です。国立研究開発法人科学技術振興機構の産学共同実用化開発事業として筑波大学と共同で開発を進めています。	
○ 潰瘍性大腸炎	201試験 日本 P II EAファーマが開発 経口剤

開発品コード：E6130

○ 炎症性腸疾患	日本 P I 自社品・EAファーマが開発 経口剤
----------	--------------------------

(4) その他

開発品コード：D2E7 一般名：アダリムマブ 製品名：ヒュミラ

薬効／作用機序：ヒト型抗ヒトTNF α モノクローナル抗体	自社品
[概要] ヒト型抗ヒト TNF α モノクローナル抗体であり、自己免疫疾患の炎症反応に関わる中心的なサイトカインである TNF α を中和します。日本では関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）、乾癬、クローン病、強直性脊椎炎、若年性特発性関節炎、腸管性パーチェット病、潰瘍性大腸炎、非感染性ぶどう膜炎の適応を取得しています。	
○ 非感染性ぶどう膜炎（効能追加）	日本 承認（2016年9月） 注射剤

開発品コード：E6011

薬効／作用機序：抗フラクタルカイン抗体	自社品
[概要] エーザイグループのカン研究所において創製された、世界初のヒト化抗フラクタルカインモノクローナル抗体です。関節リウマチや炎症性腸疾患をはじめとする炎症性疾患の血管内皮細胞に発現し、炎症反応を惹起するフラクタルカインを中和することによる抗炎症作用を期待しています。	
○ 関節リウマチ	201/202試験 日本 P II 注射剤
◎ 原発性胆汁性胆管炎	ET1試験 日本 P II EAファーマが開発 注射剤
クローン病	101試験 日本 P I / II EAファーマが開発 注射剤

開発品コード：MORAb-022

関節リウマチ（抗体）	米国 P I 自社品 注射剤
------------	----------------

開発品コード：E6071（GSK3050002）

自己免疫疾患（抗体）	欧州 P I 自社品（グラクソスミスクラインと共同開発） 注射剤
------------	----------------------------------

○：2016年4月以降の進捗、◎：2016年10月以降の進捗